



【おまけ】
アタリ
 酷暑号 | No. 00015
 平成26年07月28日(月)
 発行 書肆べう
 ながしろぼんり

酷暑うさゆり。

も う駄目だ。しょうもないことを云おうとしたらしようもなくならなくて失笑モノになってしまふ。

失 笑、にしても笑止、にしても「冗談云つちや不可ねえ」でさえない。先日左膝を強打して未だに痛いんですが、恐るべきことにどこでぶつけたかを覚えていない。コワイ!

イザカマクラ

東 京が厚い雲とゲリラ豪雨でどんよりとしておる中、ふらつと鎌倉に行ってきた。

好天である。傘を持ってきたのが阿呆らしゅうなってくる。鎌倉の駅から鶴岡八幡宮に向かい、駅に帰ってからバスで大佛さんこと高德院を参拝する。高德院から長谷寺まで歩いてのち江の島まで江ノ電に乗り、島の奥から船に乗って帰り、片瀬江ノ島の駅から退散するといった次第である。六月二十九日のことである。鎌倉の何が面白いかというのと、やっぱり「その気になる」というところに尽きる。



老いも若さも女子も赤子も猫も犬も鎌倉。

どこの観光地でもそうなんですが「ああ、日常でないところに来てしまったなあ」なのです。多分鎌倉も毎週末たら感動が薄れるだろうし、島に実家のある人がフェリーに乗るたびに興奮しているとも思えない。アタシも鎌倉三度目くらいだからまだ非日常だ。

鶴 岡八幡宮って境内の真ん中らへんでかならず結婚式を執り行っているイメージがある。今回も例に洩れず雅楽が漂ってくる。変な日本語やな。漂う雅楽と見学する外国人の皆さん。これ、セツトであります。本殿には七夕飾り何かもあつたりする。ここは新暦で七夕祭りもするようであります。カラーで見せられないのが残念無念鳩胸ン。



残 運みくじ納め箱。写真で見るとえっこう立派な造りなんだけれども、端のほうにひっそりと設置されておる。地図でも見ないと見つからない——しかし鎌倉、よく晴れている。東京に天空の城でも座り込んどると違うか。

大 佛さんは清水寺とかグラバー亭などと一緒で実に観光地然としておる。一つ違うのは、車が通るところにまで観光客が溢れている点である。つまり車が詰まる。車が詰まれば人が詰まるとききている。道理である。バスから降りるまでに時間を要する。高德院に入るのに三百円かかり、大仏の中に入るのに二十円かかるのである。入った覚えがない。昔から入れたっけか。記憶がないところを見ると多分ないが、まあ二十円だ。入

凶 運みくじ納め箱。写真で見るとえっこう立派な造りなんだけれども、端のほうにひっそりと設置されておる。地図でも見ないと見つからない——しかし鎌倉、よく晴れている。東京に天空の城でも座り込んどると違うか。

高犬保健養劑
チヨナール (説明書由忌)
 チヨナールは動物に最も必要なたんぱく質とカルシウムを配合した高品質飼料である。チヨナールは栄養不良の畜産、各種病弱動物の回復に効果的である。また、動物の健康維持に役立つ。その効果は動物の免疫力を高め、その結果として動物の健康を維持する。動物の健康は生産者の利益に直結する。定価一ギン、入五拾、送料二月の送料を乞ふ。
 神戸市兵庫区小川町二丁目三番地
 製造販売元 不二製薬所
 電話 兵庫九一九番

オエンセイシツ ゴーマーチシツ
中元暑中の御進物に
 世界唯一の特殊錠菓
カルミン
 カルミン入
 五拾円
 九拾円
 十拾円
 三十拾円



べう式「アタリ」は、
 書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。
 御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。
 Website : <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

る。大仏の左脇に入口があった。急な階段を地下へ降りていくと思いきや大仏に入るとあとは上りとなっておる。地下一面に蠟燭でも立っておるのかと思ったら、ただただ大仏の中、がらんどろの中が見えるのである。陽光燦爛の上人いきれがする。写真だと何



だかわからないかもしれないが、大仏の中で見上げるとういったものが観られることになっておる。頭の部分が暗い穴となって見えるのである。

長

谷寺は紫陽花の小道がある。るのであるが、小道を通ろうという大勢の人のために整理番号が配られておる。狭い通路も人が歩けば広くなっちゃうというアレである。聞けば一時間半待つという。

別

に咲いておる。念のため。それよりもこの、長谷寺から眺める湘南の海なんかすごく気分がいいものです。

そ



毎

度おなじみキキベチアに江島神社についてこういう記述がある。江戸時代までは弁財天を祀っており、江島弁天・江島明神と呼ばれた。幕末に日本を訪れたロドルフ・リンダウ(Rodolphe Lindau)は、著書『Un Voyage Autour du Japon, Paris, 1861』(『日本周航記』)のP.287で、この弁財天について Omanko-sama の別名がある、と記している。へえー、ほおー、ふーん。確かに藤沢のあたりに遊郭があったようで、弁天様が嫉妬す

前

ると不可ねえ、という口実で女性陣と一緒に連れてかないみたいなのがあったみたい。急な嵐で江の島から帰れなかったから泊まってきた、みたいな口実もあったという。にきた時には島の奥に岩屋があつて、弁財天像が祀ってあつた。で、この平成の御代なので、座布団でうまいこと股間部分を隠してある。おそらくは、像の一部分はこれでもかこれでもかと美に細に渡り造り込まれておつたのであろう……という像がなぜか島の中腹のお堂に引越してきておる。島の奥の岩屋が改装中だという。もちろんというか何というか撮影禁止なのであるが、何故か妙音弁財天で画像検索すると出てくる。この像が Omanko-sama なのであろうか。たぶんそうであろう。手に汗握る展開である。別になんもせんけどオ。他



か。サザエのスライスを卵でとじてご飯にかけてある。観光地値段なのでなかなか食べれる気にならずにここまで来ておるのですが、それよりも何よりも江の島の駅から島まで生シラス井に生シラスパスタ。鮮度が命だから流通には向かないだろうし、美味いもんだとは思いますがね。なんかこう釈然としない。釈然としない理由が何かは、今のところよくわかっていないけど、そんなにシラスって獲っていないものなのか、というのが引っ掛かっているのかもしれない。湘南、実に結構でござんした。はじめの方にも書いたけど、日帰りで非日常なのがよい。夕方までに帰り着くのがいい。帰ったらまたはじめして、旅はなおいい。

バックナンバはこちら
弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイトで
<http://sbw.web.fc2.com/atari/>
からご覧いただけます。

暑い
最高気温が34度35度というのが当たり前になってきて、作業パフォーマンスがとことん悪くなつておる。問答無用で秋口まで休業にしたいくらいだ。

だが生きる
生きないと秋口まで生きてないからな！（もうよくわからなくなっている）今のうちに予告しておきます。諸事情および状況を鑑みたくえ、11月24日の文芸フリマには書肆べう、参加しません。何かの企画があれば参加することはあるかもしれませんが、書肆べうとしてはなかなか創る時間、取れないと思います。

次回アタリ
8月も忙しいので、なんとかお盆中に一号出せればと思います。せめてそのくらいは頑張る。